事業報告概要書（公表版）

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
東京臨海広域防災公園	（指定管理者名）公益財団法人　東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
R6.2.1　～　R10.1.31（4年間）	

2　施設名

東京臨海広域防災公園

3　収支（単位：千円）

項目		令和７年度 金額	令和６年度 金額	令和５年度 金額	公園別支出額
収入　計		62,987	59,047	9,399	
内訳	指定管理料	62,987	59,047	9,399	
内訳	利用料金	0	0	0	東京臨海広域防災公園：62,893
内訳	その他収入	0	0	0	
支出　計		62,893	57,556	9,064	
収支差		94	1,491	335	

4　管理運営の概要

令和7年度の入園者数は、98,845人と令和6年度比6,281人の増加となった。「空をみあげて（8月）」「ぼうさいモーターショー（10月）」の大型イベント中止による減少などから考察すると、継続的なイベントの開催やパークーミーティングの開催を通して、地域住民への公園の知名度と親しみ易さが浸透し徐々に知名度向上の効果が出ていると考えられる。
今年度は企業・地域・周辺施設などとの関係づくりを念頭に事業を推進し、新たな来園者層への訴求を目的に、東京ビックサイトで開催される「サイクルモード」の主催者と公園での連携イベント「防災×サイクルフェス」を初開催した。
また昨年度からの継続事業として、近隣住民と行う「復興ひまわりの植付け」「芝生で体を動かそう」やボランティアと協働で行う「花壇づくり」を実施した。
下半期には指定管理事業イベント「防災×アウトドア」に加え、国営と連携した「防災フェスタ」を開催し、防災意識の普及啓発を行い、防災を身近に楽しく学べる公園をPRした。それぞれのイベント認知促進と集客の拡大のため、新聞折込の活用や江東区報・Web情報誌での掲出など周知に努めた。

5　管理状況

①維持管理

【公園の特性を考慮した維持管理】
・専門ガーデナーによる継続的な助言のもと、植物管理の知識や技術を習得した花壇ボランティアが中心となり、園内2箇所の宿根草花壇の定期的なメンテナンスを実施した。四季の変化に応じた適切な管理を行うことで、年間を通して景観性の高い修景花壇を良好な状態で維持することができた。
・園内維持管理作業で発生した剪定枝を活用して運用している5箇所のバイオネストでは、清掃作業で回収した落葉を堆肥化し、腐葉土として花壇内に敷設・再利用した。バイオネストを活用した腐葉土づくりにより、発生材の有効活用を図るとともに、処理コストの削減にも寄与した。
【維持管理の作業効率向上】
・自動芝刈機（大型1台、普通4台）を活用し、公園南側および草地広場の芝生エリアにおいて、計画的かつ効率的な芝生管理を実施した。来園者が多く利用する時期においても、緑地環境を良好な状態で維持することができた。
【安全・安心の確保】
・台風や大雨、強風等の気象災害が予想される際には、事前に特別巡回を行い、危険木や落枝の有無を確認するとともに、排水桝や側溝の清掃、ハザードマップに基づく危険箇所の点検を実施した。これらの取組により、事故の未然防止に努めた。
・毎日の維持KYミーティングを継続して実施し、他の公園で発生した事故事例等を速やかに共有することで、作業者全員の危険予知と安全意識の向上を図り、無事故・無災害で作業を行うことができた。
・ごみ管路収集設備の定期保守点検および月1回の夜間パトロールを計画的に実施し、設備や施設内の不具合がないことを確認するとともに、適正な保守管理に努めた。

②利用者への対応

・窓口・電話・巡回・イベント・ボランティア活動を通じて、積極的に利用者の声を集めた。頂いたご意見はサービスセンター内で検討し、適宜公園運営に反映させた。また、他公園の事例を参考に改めて園内を見直すことにより、公園利用者に不便が生じないような環境整備を行い公園の安心と安全を創出した。
・占用申請への対応については、都市公園法や関係通知、指定管理の手引き等への理解を深め、申請の問い合わせには、実施内容や想定されている撮影内容などを丁寧に確認。許可の前例の有無を、職員間で確認や本社に問い合わせるなどして、適切に対応した。
・地域コミュニティの連携についても、花壇ボランティアとの連携を通して公園の景観の向上を図るとともに、他の公園ボランティアとの交流を深めた。更には近隣の保育園・学校に対し公園を積極的に利用してもらうよう働きかけ、イベントなどに参加してもらった。
・パークミーティング開催に当たっては、日頃、あまり公園を利用しないという方にも関心を高め参加してもらえるよう、イベント開催日に合わせ実施した。地域の潜在的なニーズの把握と、その声を聞くことで、より公園を身近に感じてもらう機会を創出した。

6　利用者アンケート結果

実施方法：所内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
東京臨海広域防災公園	4.6	4.6	4.3	4.7	4.6

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
東京臨海広域防災公園	98,845	指定管理事業イベント「防災×アウトドア」に加え、国営と連携した「防災フェスタ」を開催し、防災意識の普及啓発を行った。
合　計	98,845	

（公財）東京都公園協会

東京臨海広域防災公園

所在地：東京都江東区有明3丁目8番35号／開園面積：6.5ha

花と緑があふれ、楽しみながら防災を学べる、心地よい空間

企業や団体と連携し、利用者ニーズに応えるプログラムの取組

NEW ビックサイトでのイベントと連携し、新たな層の獲得

「防災×サイクルフェス」を開催。自転車を使って来園した新たな層**(818人)への防災啓発**と公園のPRを行った。参加者から、日頃の備えなど、防災アンケートを実施し、防災に対する意識を調査しつつ、防災意識向上を図った。

防災設備の説明と防災意識アンケートの実施

Update 企業との連携強化により、付加価値がアップ

「防災フェスタ」を開催。防災×サイクルフェスで関係を築いた企業との連携により、イベントに厚みと広報力がプラスされ、**目標を超える参加者数(250人)となり**、笑顔の拡大につながるイベントとなった。

災害時でも荷物運搬が容易な自電車の試乗

Update キャンプ技術が発災後の72時間を乗り切る力へ

「防災×アウトドア」を、国営公園・アウトドア団体と連携し開催。Web媒体投稿で趣旨に賛同した企業やFMラジオ出演を得て、**目標数(200人)**に達する等、ニーズに沿った防災体験となった。

レジャーシートを使った簡易担架の体験

地域と共に、持続的な公園管理とコミュニティを促進する取組

Update 公園づくりに参画できる、パークミーティング

東雲１・２丁目の町会・自治会、PTA役員等を迎えパークミーティングを開催。宿根草ガーデンツアーや自治会役員による炊出し体験を行った。**(ガーデンツアー:6人/炊出し体験:5人/200食の提供)**（６・１月）

園内で実施したパークミーティングの様子

Update 公園の価値を高める、花壇ボランティア交流会

近隣公園のボランティアと勉強会・交流会を実施。様々な実施方法を見ることで、活動への意欲と技術の向上が得られたとともに、**街全体が緑でつながり、来園者増のキッカケ**となった。（７・10月）

プロムナード公園の花壇ボランティアと共に

Update 地域とつながる、大学生イベントへの出展

「じゅんぐりマーケット」に出展。防災意識の向上と備蓄への啓発を行った。更に、近隣企業３社の協力を得て、住宅火災を想定した「煙体験テント**(体験者130人)**」を実施し、**新たな企業連携を得た。**

煙体験テント前で公園の機能・役割を説明

協会ネットワーク・SNSを活用した広報・宣伝 等の取組

Update 水上バスと連携した、防災訓練と利用促進

〝防災の日〟に向けて、防災公園×水上バス避難のイベントを実施。乗船者に防災船・公園のPRと役割を説明。 参加者からは**「防災船というものを初めて知った」「定例にして欲しい」と多くの声をもらった。**

防災船の説明と公園認知度アンケートを実施

Update SNSの発信力強化とWeb情報媒体の活用

園内の開花情報や公園の魅力、イベント情報等をSNSやweb情報誌、区報を通じて国営公園と共に情報発信した。来園者から、**情報誌を見たとの声もあり、効果的に多くの人に周知できたことがわかった。**

Instagram:植物情報や日々の公園の発信

Update 児童への防災意識を高める、ゆるキャラ開発

子どもたちにも接しやすい防災啓発を行うことを目的に「ゆるキャラ」を開発。アイディア募集(12案)、人気投票(142票)を行い防災リュック(地震を感知するアンテナ)を背負った**〝備えりす(51票)〟に決定。**

ゆるキャラ選手権チラシと決定したキャラクター

暮らしに寄り添った防災プログラムの取組

NEW 身近で親しまれる防災ホームパークづくりの推進

地域の中学校(２校)と連携し「職場体験(３日間)」を実施。参加した学生は花壇管理、園地清掃の他、消火器の使い方等災害時に役立つ技術を学び、**「友人に公園をPRをしたい」とのお声を頂いた。**

日常でも役に立つロープワーク体験(3種)

Update 要配慮者の立場を知る、知識の習得と訓練

近隣住民と連携し、「インクルーシブ講座と防災訓練」を実施。視覚障害者と車いす利用者への配慮を学び、実践訓練を行った。熱心に質問も出て防災意識と感心の高さを実感できた。**(参加者数：57人)**

一時避難場所までのルート確認

Update 震災を忘れない、ひまわり・チューリップの植え付け

震災後から紡ぎ育てられた「ひまわり」や被災地で育ったチューリップを親子が一緒に植える「定植イベント」を、国営公園と連携し開催。都会に住む親子の関心を大いに引いた。**(参加者数：157人)**

ひまわりの植替え・チューリップ球根の植え付け

東京2020大会レガシーを継承する取組

Update スポーツをもっと身近に

「モルック」の高校生大会＆体験会を実施。世界チャンピオン経験者による講習会も開催した。**(参加者数：25人)**

健康づくりの場所として４月・５月に青空の下、草地広場でヨガ教室を実施。来園者からは「青空の下で気持ちよさそうだ」「定期的に開催してほしい」と声を掛けられた。**(参加者数：16人)**

芝生で体を動かそう～モルック～

芝生で体を動かそう～ヨガ～